

平成 30 年 度

# 徳島県立病院年報

第 53 号

徳島県病院局



# 平成 30 年度 徳島県立病院年報目次

まえがき  
凡 例

## 第 1 章 県立病院の概況

1	概 要	3
2	現 況	4
3	機 構	5
(1)	本 局	5
(2)	中 央 病 院	5
(3)	三 好 病 院	6
(4)	海 部 病 院	6
4	職 員	7
5	沿 革	8
(1)	中 央 病 院	8
(2)	三 好 病 院	12
(3)	海 部 病 院	15
6	許可病床数・診療科目の変遷（法適用後）	17

## 第 2 章 施設の現況

1	土 地	21
2	建 物	22
3	医療器械器具	23
(1)	平成 30 年度取得高額医療器械	23
(2)	病院別医療器械	24

## 第 3 章 患者の状況

1	入院・外来患者数	39
2	月別 1 日平均患者数	42
3	病類別入院患者数及び構成比	44
4	病 床 利 用 率	45
5	診療費負担区分別患者構成	46
6	診療科別患者構成	47
7	職員 1 人 1 日当たり取扱患者数	48
8	救 急 患 者 数	49
9	患 者 統 計	50
(1)	平成 30 年度病床数・病床利用率	50
(2)	平成 30 年度平均在（通）院日数・外来入院比率	50
(3)	平成 30 年度月別患者数	51
(4)	平成 30 年度月別 1 日平均患者数	52
(5)	平成 30 年度診療科別延患者数	53
(6)	平成 30 年度診療科別 1 日平均延患者数	54
(7)	平成 30 年度診療費負担種別	55
(8)	平成 30 年度救急患者数	55
(9)	平成 30 年度差額室延数・利用患者延数	56
(10)	平成 30 年度職員 1 人 1 日当たり患者数	56

## 第4章 診療の状況

1	診療給付点数	59
2	診療科別点数構成	60
3	診療科別患者1人1日当たり点数	62
4	手術件数	64
5	分娩件数	65
6	放射線等使用件数	66
7	検査件数	67
8	給食件数	68
9	診療統計	69
(1)	平成30年度診療科別給付点数	69
(2)	平成30年度診療科別患者1人1日当たり給付点数	70
(3)	平成30年度手術件数	70
(4)	平成30年度月別分娩件数	71
(5)	平成30年度放射線等使用件数	71
(6)	平成30年度検査件数	72
(7)	平成30年度食種別給食数	72
(8)	平成30年度院外処方箋発行状況	73
(9)	平成30年度服薬指導実施状況	74
(10)	平成30年度無菌製剤処理加算実施状況	74
(11)	平成30年度後発医薬品導入状況	74
(12)	平成30年度入院時持参薬調査	74

## 第5章 職員の状況

1	部門別職員数	77
2	職種別職員の平均給与月額	78
3	職種別職員平均年齢	80
4	職員統計	81
(1)	平成30年度末部門別職員数	81
(2)	平成30年度100床当たり部門別職員数	81
(3)	平成30年度職種別職員平均給与月額	81
(4)	平成30年度診療科別1日当たり医師数	82
(5)	平成30年度末職種別職員平均年齢	83

## 第6章 経理の状況

1	収益及び費用	87
2	資産・負債及び資本	92
3	資本的収支年度別比較	94
4	企業債借入及び償還状況	95
5	主要経営比率	96
6	経理統計	97
(1)	平成30年度収益・要素別費用	97
(2)	平成30年度収益(100)当たり要素別費用	97
(3)	平成30年度患者1人1日当たり収益・要素別費用	97

# ま え が き

平成 17 年度に地方公営企業法を全部適用した徳島県病院局では、平成 27 年 3 月の新公立病院改革ガイドライン（総務省）を受け、「徳島県病院事業経営計画（安心医療・とくしまを支える新県立病院プラン）」を平成 28 年 6 月に策定し、「医療の質の向上」と「経営財政基盤の強化」を基本戦略に掲げ取り組んでおります。

平成 30 年度におきましては、まず、中央病院では、本県医療の中核拠点として、急性期・救急医療、高度先進医療、災害医療等で県の中心的な役割を担うとともに、関西広域連合の一員として県全域に留まらず他県域を含めてカバーするドクターヘリの基地病院として貢献し、平成 24 年度の運航開始以降、救急患者の救命率の向上に努めております。

また、三好病院では、県西部の地域がん診療病院として、フルセットのがん医療を推進し、地域の関係機関と連携した地域完結型のがん医療を提供するとともに、基幹型臨床研修病院として、地域社会を理解し、高い倫理観を持って、医療福祉に貢献できる人材育成に努めております。

最後に、海部病院では、南海トラフ巨大地震による津波被害への抜本的な対策として高台への移転が完了し、平成 29 年 5 月に現在地で開院しており、平常時には県南地域の医療拠点として、また、災害時には地域住民の命を守る先端災害医療拠点として、平常時・災害時ともに切れ目のない医療の提供に努めております。

平成 30 年度の経営状況につきましては、外来患者数が減少したものの、入院患者数が増加し、総収益が増加した一方で、材料費や給与費等が増加したことから総費用が総収益を上回ることとなり、全体として約 5 億 8 千万円の純損失が発生いたしました。

今後の病院事業を取り巻く経営環境は、引き続き厳しい状況が続くものと懸念されるところですが、県下の基幹病院あるいは地域の中核病院としての機能を十分に発揮し、なお一層の経営努力を行いながら、「県民に支えられた病院として、県民医療の最後の砦となる」との基本理念の下で、良質な医療の確保を図ってまいりたいと考えております。

このたび、平成 30 年度における県立病院の業務内容と経営概況を中心として、病院事業の実態を計数的に把握できるように年報として取りまとめましたので、参考資料として、ご利用いただければ幸いです。

令和 2 年 1 月

徳島県病院事業管理者

香 川 征

## 凡 例

- 1 この年報で徳島県立病院とは、徳島県病院事業の設置等に関する条例（昭和 39 年条例第 37 号）により設置された病院をいう。
- 2 この年報の年度区分は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までである。
- 3 病床数は、医療法の規定に基づき、知事の使用許可を受けた病床数である。  
年間平均病床数は、毎日の病床数を合計し、これを暦日数で除したものである。
- 4 入院患者延数とは、毎日午後 12 時現在の在院患者数にその日の退院患者数を加え、これを年間合計したものである。
- 5 外来患者延数とは、診療のため来院した患者数を年間合計したものである。  
同一患者が 2 科以上の診療を受けた場合、入院患者が他科の診療を受けた場合及び薬品を交付した場合には、それぞれの科の患者数として計上した。
- 6 1 日平均患者数は、入院については暦日数で、外来については実診療日数で除したものである。
- 7 入院患者の病類別区分は、主たる病類の別に結核、精神、感染症に区分し、その他を一般とした。
- 8 診療費負担区分別患者数とは、診療費の支払方法別に区分した患者数である。
- 9 診療科別患者数とは、病院において標榜している診療科で診療を受けた患者の数である。
- 10 診療点数とは、診療報酬点数表、歯科診療報酬点数表により算定した点数である。
- 11 表章記号は次のとおりである。

計数がない場合	0
計数がありえない場合	—
数値が微少の場合	0.0
- 12 以上のほか注記が必要と思われるものについては、それぞれの箇所に記載した。